

《看護ワンテーマBOOK》 退院支援実践ナビ

宇都宮宏子 編著

定価1890円(本体1800円+税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657



巻頭に「本書は、退院調整部門の看護師はもちろんのこと、退院支援に取り組む病棟、外来の看護師の方々に向けて、退院支援、退院調整の実務に必要な知識実践法をまとめたものです。」(p.6)と書かれている。近年、退院支援・調整は病院の在院日数の短縮化や患者さんご家族(以下患者・家族とする)が安心して在宅療養を再開するには不可欠な部門である。2012年度の診療報酬・介護報酬の同時改訂においても、「在宅医療を担う医療機関の役割分担や連携の促進」は重点課題に挙げられている(2011年1月21日中医協資料)。この著書はすでに退院支援・調整に関わっている人も、これから強化したいと考えている人にも、

それぞれの役割を相互理解するうえでの良書である。

私がお勧めする本書の主たる魅力は3点ある。

1つめは、退院支援・調整の先駆者である宇都宮氏による最新書であること。

私が大学病院で退院支援・調整看護師として従事していた約15年前、退院支援・調整の質により患者の退院後の生活の満足度が変わるのを経験的に実感していた。しかしそれを根拠づけるような研究成果が明らかでない手探り状態であった時期に、宇都宮氏はすでに実践し言語化し始めていた。宇都宮氏の著書に説得力があるのは、彼女が訪問看護師としての経験をもとに病院看護師や地域の関連施設を納得させる結果を出しているという根拠があるからと感心しながら読んだ。今回はさらに実践内容がわかりやすく絵本式に書かれており、若い実践者にもなじみやすいと思われる。

2つめは、退院支援と退院調整の違いを明確化していること。これは私のこだわりとも合致しているが、退院支援と退院調整は似て非なるものである。しかし、昨今、この用語の定義が混同して使われることがある。詳しい定義は本書でご確認いただきたいが、願わくは、退院支援

は、看護師が看護実践の一つとして患者と家族の生活を包括的にアセスメントし、時には代弁者として関わり、退院調整はその結果をもとに対象者の状況やニーズに沿って得意分野の職種がリーダーシップを発揮すると望ましいのではないだろうか。

3つめは、全体的にわかりやすく見やすい表現を取り入れていることで、看護職だけでなく福祉職などにも理解しやすいことである。入院期間の短縮化や在宅療養の推進によりスムーズな退院や顔の見える連携が望まれているが、たとえば担当者会議において、看護師は会議中に専門用語や略号を多用することで他職種が口をはさめない状況を作り出してしまいうことが依然存在する。そんなときに退院調整に積極的に関わりたいと思うケアマネジャーさんから対処方法を相談されたら、私はまずこの本を紹介し、病院看護師がどのように患者や家族のことを考えて関わっているか予備知識を得ることを勧めた。

「これからは外来での『在宅療養支援』が重要」(p.14)と書かれているが、この本を一読することにより、私は「これからは在宅側からの『退院支援・退院調整』も重要」と納得している次第である。